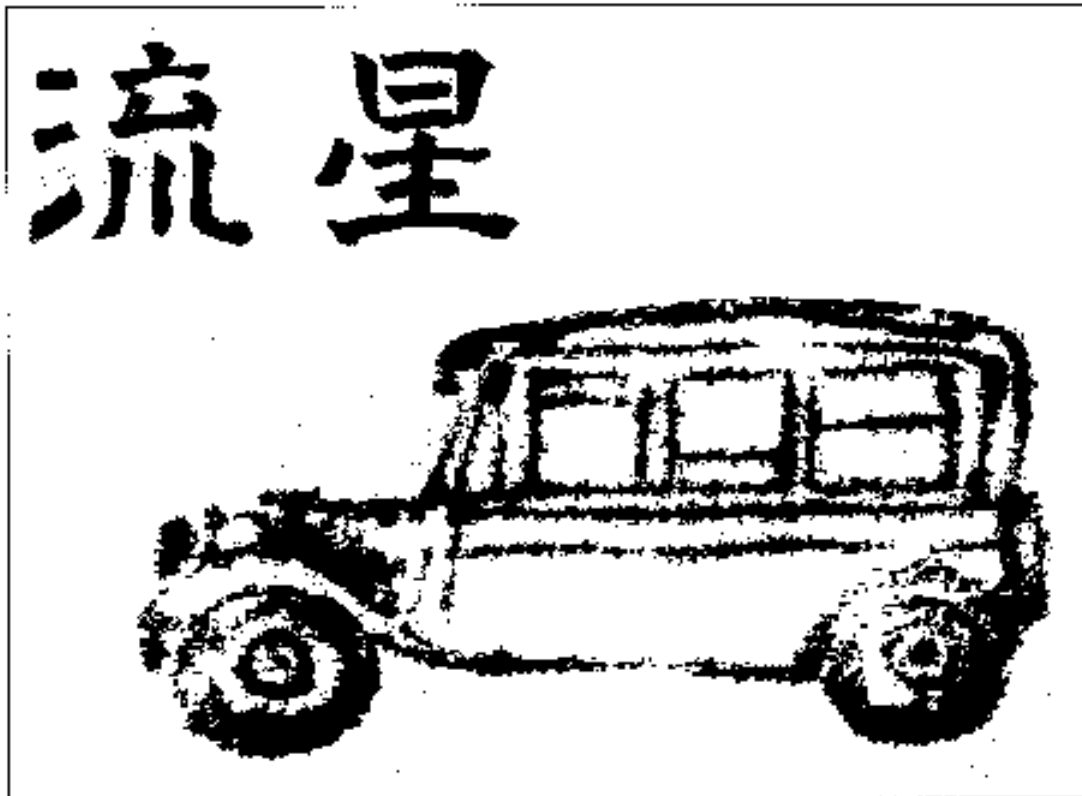




流星 第24号(OB会誌11号)

目次

題字 河村芳平先生(元部長)

イラスト 伊東和俊(子44)

巻頭言	部顧問	平木講儒 准教授	2
所感	会長	木村知幸(機36)	3
新主将挨拶	新主将	穴井謙士郎(機2回生)	4
新OB会担当挨拶	OB会担当	茶堂徹二(機知能1回生)	4
新入部員挨拶			4
自動車部 23年度活動・会計報告			
2012 第50回 KIT Night ラリー詳報	ラリー委員長	原健太郎	6
OB会 24年度活動、交流会報告、25年度活動計画	事務局	中西 彰 (加50)	7
OB会・24年度会計報告、25年度予算案	会計	武地伸佳(機II 51)	8
OB会 会計監査	会計監査	田中直方(化45)	9
特別企画1;地区幹事と自動車部(自動車)			11
青春時代のひとこま	九州地区副幹事	柴田博幸(化45)	11
私と自動車部	関西地区副幹事	山崎賢二(電49)	12
自動車部の思い出と感謝・お礼	中京支部副幹事	河野文隆(制49)	13
いつかはクラウン	関東地区副幹事	宮崎武士(機39)	14
特別企画2;城先輩の手紙			15
川崎先輩ご逝去	九州地区副幹事	山本正樹(制46)	17
会員名簿、物故者名簿			18
編集後記			19

震災当日



部顧問 平木講儒 准教授

震災の起こった当日、私は自宅にいた。もちろん北九州である。その日は東京へ出かける予定で、専門家による委員会に参加するため有給休暇を取ってあった。だが、翌日の土曜日にも入学試験のために朝から出勤しなければならなかったため、日帰りする必要があった。委員会が長引いたとしても、夜の11時羽田発の北九州行き飛行機もあるので特に問題はない。だが、翌々日の日曜日から欧州出張も控えていたせいもあったのか、どうしても気が進まず直前まで迷った挙句、予定をキャンセルして断りの連絡を先方に入れた。休暇を取ってあったので、そのまま自宅で過ごすこととした。午後になって、流していたTVから臨時ニュースが聞こえてきた。東京で地震があったということと、付近のビルで火災が発生しているとの一報で、煙を立ち上げている映像が流れてきた。そのうちに、あちこちで煙が上がっている映像も出てきた。そのときはそれほど大事とは思わなかった。しかし、どこかの天井が落ちた、などの一報も入ってきて何やら慌たしくなってきた、これはかなり大きな地震だったのだとわかった。そうこうするうちに、津波警報が画面にテロップで流され始めた。私は比較的海に近い環境で生まれ育ったが、津波で避難をした経験は一度もない。だから、津波が来たとしても若干の海面の上昇が確認されるだけで、警報通りなどということはないだろうと高をくくっていた。しかし、実際は皆さんがご存じの通りである。もしも私があの場において、しかも仕事をしていたとしたら、警報を無視して働き続けていたのは間違いない。つまりは、津波の犠牲になっていたはずである。そんなことを考えながら、テレビの画面に貼り付

いたまま動けないでいた。衝撃的だったのはNHKのヘリからの中継で、津波が平原を延々と遡上していきながら次々と家や車が津波に飲み込まれる様子が生々しく伝えられていたことである。その中継にはヘリの音しか入っていなかったせいか、かえって恐怖が感じられた。津波は車よりも速い。車では逃げきれないことがはっきりと映し出されていた。もしも、あの場を自分が車で走っていたとしたら、津波が身近に迫っていることをどうやって知ることができただろうか？仮に津波の接近を知ったとして、車を捨てて高台へ逃げるといった判断を瞬時にできただろうか？そんなことができるとは到底思えなかった。そんなことを思っている間にも次々と車が飲み込まれていて、人的被害は甚大であることは疑いもなくなった。もはや祈るしかなかった。茫然としながらテレビの前からなかなか動くことができなかった。これが震災当日の私の行動である。さて、もしもその日予定通り委員会に出ていたらどうなったか？委員会の最中に地震が発生し、交通機関がマヒしたためその日のうちに帰ることはおろか、その場からの移動もままならず、ほとんどの委員が会議室で一夜を明かしたそうである。こんなことが起こると思って予定をキャンセルしたわけではないが、翌日の出勤と翌々日からの海外出張を無事に果たすことができた。しかし、心に何か負い目を感じている。あの日、多くの方が犠牲となった。だが、自分は家にいてテレビを見ていただけだ。偶然とはいえ、混乱から身を遠ざけていた。震災で犠牲となった方のご冥福を心から祈りたい。

了

第2回KITAC現役・OB交流会に参加して



自動車部 OB 会会長 木村 知幸(機 36)

9月22日に開催された首記交流会に初めて出席した。この交流会は現役世話役 坂元主将、原ラリー委員長、穴井OB担当他の皆さんで準備され、現役側 14 名、OB側として中西事務局・現役交流担当役員他 9 名が参加した。

交流会は「戸畑生涯学習センター」で 14 時から開催され、第一部「KITAC部活動の活性化に向けた座談会」、第二部は席を改めて「懇親会」とし、交流と情報交換、懇親の実を挙げることが出来た。座談会の詳細については担当役員から報告があると思われるので、私が感じたことについて触れてみたいと思う。

今回の交流会に参加した目的の一つは、会長として現役の皆さんと親しく話をし現状をより良く理解したいこと、更に、部活動の活性化に向けての意欲と取り組みの実態を把握して、今後の支援への指針としたいと考えたことです。

これまでの報告からの理解では、部員の減少とそれに伴う積善会部費の減額が急速に進んでいて、この対応が急務であると思われます。報告によると、今年は4月の体験入部でこれまで通りのフィギュア運転体験の外に、実際にカートに乗って走る体験をさせる等熱心な勧誘の成果もあって、6 人の新入生が入部し、16 名の部員が在籍することとなり、責善会部費も昨年以上の増額が認められたとの事。しかしながら出費がかさみ、とても余裕が出来たとはいえない状況に変わりはないとの事。この件に関しては、現役部員も真剣に取り組んでいることが良くわかり、今後の更なる部活動の活性化に向けて、OB会として緊密な連携を取りながら対応していく必要があると思われる。すなわち現役側の支援要請には 1) 資金面での援助、2) 部活動遂行上の人的支援、の 2 面があり、このそれぞれに対しどのように対応できるかが問われている。1)については、OB会費

徴収と同時に、任意の部活動援助費を集めて支援しているが、これは主として部活動予算の毎年度の赤字補填的な支援と考えられるが、「多々益々便ず」方式でいいのか、毎年一定額の計画的募金が出来よう考えてみる必要があるのではないかと。一方、SA車の問題を含め、突発的、且つ纏まった金額の支出を余儀なくされる事態も想定される。この両面に対応するためには、現役、OBの更なる緊密な相互理解と連携をベースに、毎年の計画的援助費募金が出来ないか検討してみる必要があると思う。もちろん部活動費の詳細、且つ広範囲な情報公開は難しいと思われるので、現役とOB会の現役交流担当役員で折衝し、OB会役員会に諮って年度ごとに予定金額を設定し、予定金額の設定根拠、目安の援助単価、人数を明示してお願いする方式は如何であろうか。2)については、現在も一部のOB会員の献身的な支援が行われて、部活動の活性化に貢献しているが、現役、OBの交流の一環として、主として九州地区のOB会員による支援のための連絡窓口、連絡網の構築が出来れば、より効果的な支援に繋がるのではないかとと思われる。

以上、感じるままに述べてきたが、現役支援強化への一提言になればと思います。

私も6月に75歳の誕生日を迎え、免許証更新の手続きに行き、認知症のテストを受けました。幸い問題なく更新を済ませましたが、有効期限は 3 年ほどになりました。直後に高速道路で 34 キロメートルの速度違反で反則キップを切られ、2 万 5 千円の反則金を支払う羽目になりました。実に 50 数年ぶりの反則でした。これも高齢者は無理な運転をしないよう、天が警告してくれたと前向きに捉え、好きなゴルフ(年 180 回)で体を鍛えて、若い人たちの負担にならないように心掛けています。了

注； 24 年度の部活動援助費は、藤田嘉彦先輩を始めとする皆さんから多額のご支援を頂き、例年の 3 倍の資金が集まりました。ありがとうございました(会計報告を参照)。会長からご提起いただきましたが、支援の額の安定化、適正化のため、皆様からの引き続きのご支援をお願いいたします。 OB会 会計 武地

先輩の皆様へ

責善会自動車部主将 穴井謙志郎(機械2回生)

先輩の皆様にはご清勝のこととお慶び申し上げます。
私は、来期より第72代主将を務める、機械知能工学科
2回生の穴井謙志郎と申します。

23年度の自動車部の課題として、部員数の少なさが
ありました。その問題解決に向け、今年は部員獲得の
為に、新入生を対象としてレーシングカートの体験をさ
せる等の活動を行いました。その効果もあってか、今年
は7名の1年生が入部してくれました。来期はこの人数
の多さを活かして、より活動の幅を広げていきたいと思
っております。

また、自動車部の大きな変化として、株式会社NOKクリ
ューバーさんに我々KITのラリーをサポートしていただ
けることになりました。この繋がりを絶やさないよう、また、

相互に良い関係を作れるよう、活動していきたいと思
います。

9月22日に開催致しました現役・OB交流会では、今後
の自動車部のあり方、問題解決に向けての活動、等を
議論することができ、非常に有益な時間となりました。こ
の場をお借りしてお礼を申し上げます。

主将という責任ある立場に立たせていただくというこ
とで、これまでの自動車部の伝統を守っていく一方で、
新しいことにもチャレンジし、自分らしい色を出してい
きたいと思っております。九州工業大学自動車部の長年
の歴史に恥じないよう、活動して参ります。

今後とも、先輩方のご助言・ご協力、宜しく願い致し
ます。

=====

— 新OB担当 —

機械知能工学科 1回生、茶堂 徹二と申します。今後
「流星」、OB会に関する自動車部の窓口は私が担当さ
せていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

〒804-0011 福岡県北九州市戸畑区中原西3丁目
2-24 パークサイド仙水 301
電話番号 080-2911-1680

=====

— 新入部員挨拶 —

1. 池田 佳允 (機械)

昔からこれといって車に興味があったわけでは無
いのですが、地元の友達にドリフト走行に連れて
いかれてから悉く車に浸かってしまいました。そ
れで自動車に入部しました。

まだまだ自分は未熟ですが、今後学生レースや走

行会、先輩方のサポート等を通して徐々に上達し
ていきます。

今後、ご迷惑をおかけすることもあると思います
がよろしくお願い致します。

2. 植松 (応化)

自分が自動車部に入部しようと思った理由は、僕
は昔からクラシックなクルマに憧れがあって、自
分の愛車をクラシカルにいじってゆったり流して
ドライブするのが夢でした。これはエンジンをブ
ンブン回してとりあえず速く走りたいという自動
車部とは趣向が違うとは思いますが、もちろん、ジ
ムカーナやレースにも興味がありますが、自動車
部では自分の車を触れるようになりたいです。と

いうのも、高校のときからなんとなく大学生なっ
たらNAロードスターを買おうと思っていたので
すが、もう車自体が古すぎるのでいちいちディー
ラーに出していたらお金がかかるから、自分でク
ルマをメンテナンスする技術が欲しいのです。

これから、色々と迷惑をかけることもあると思い
ますがどうぞよろしくお願い致します。

3. 茶堂 徹二 (機械)

私が自動車部に入部したのは、小学生のころからF1やSuper GTなどのレーシングカーに興味をもっていたからです。大学生になってからでないと出来ないことをやってみたく、また自動車部に入ったら、車のさまざまな知識を学べると思い、入部

しました。

今年は新入部員が多いので、さまざまなことにチャレンジして活気のある部にしたいと思っています。

4. 福田 進之介 (機械)

自分が自動車部に入部しようと思った理由は、幼い頃から自動車関係の漫画や映画が好きだったので、自動車部に入り自動車のことに詳しくなり、レース等に参加できるくらいに運転がうまくなりたいと思ったからです。

なので、自動車部のラリーの活動や各種レースのオフィシャル参加はキツイときもありますが、

色々なお話や体験をさせていただけるのでとても楽しいです。

将来的には、ジムカーナをやりたいと感じており、上位に入賞できるようになりたいと思っています。これから色々とお世話になると思いますが、頑張りますのでよろしくお願いします。

5. 増谷 大樹 (総シス)

自分が自動車部に入りたいと思った理由は、もともと車が好きだったからです。自分は車にかぎらず動く機械全般が好きで、大学に入ったらそういうクラブに入りたいと漠然と思っていました。

大学のサークル紹介を見ていて、自分の好きな車をさわられてとても良いと思い、このクラブに入りました。自動車部で車を自分でメンテナンスできるだけの経験と知識を手に入れたいです。

6. 松邨 聖那 (機械)

私が自動車部に入部した理由はレースに興味を持っていたからです。ジムカーナやラリー、ダートラなど、様々なレースに参加していい成績を残せ

たらと考えています。そのためにも、まずは自分の車を持ち、整備のしかたについてもこれから学んでいきたいと思っています。

7. 松本 翔平 (機械)

私が自動車部に入部した動機は、新しい趣味を見つけたいと思ったからです。また、工業大学に入学したので機械をいじってみたいという気持ちもありました。

先輩方の整備を手伝い、多くのことを学びたいです。

また一年の部員が多いのでお互い切磋琢磨しあって頑張っていこうと思います。

— 自動車部 2012 年度活動・会計報告 —

3月 追い出しコンパ

4月 入学式・部員勧誘

5月 全九州学生ダートトライアル大会・
2012 ACK SPRING ラリー

6月 春季全九州学生ジムカーナ大会

8月 2012 ACK Summer ラリー・自動車部強化合

宿 (モビリティおおむた)

9月 旅行 (大分)・現役・OB 交流会

10月 秋季全九州学生ジムカーナ大会

11月 第50回 ACK・KIT ナイトラリー・工大祭 (たこ焼き屋)

12月 学内マラソン・忘年会

2012 年 第 50 回 KIT NIGHT ラリー詳報

九工大 自動車部ラリー委員長 原 健太郎



2012 年 11 月 3 日～4 日に開催しました第 50 回 ACK・KIT Night ラリーが無事に終了しましたので、報告させていただきます。

大分県日田市上津江にあるオートポリスを中心に上津江・中津江・前津江の林道を使用して、総移動距離120km のラリーを開催させていただきました。

今回の参加台数16台で学生選手権もかかっており学生から5台参加していただくことができました。

今年は7月末の九州北部豪雨により多くの林道が被害を受け、使える林道が少なくコース作成の時に苦戦しましたが、当日はスムーズに競技の進行ができました。

1st ステージでは、オートポリスのレイクサイドコースを使用して、SS ラリーを行いました。

2nd ステージでは、林道を使用した計算ラリーを行いました。今年は事故もなく選手みなさんに好評をいただきました。

今回のラリーを開催するにあたり徳尾三郎さんをはじめとする ACK の皆様には、全面的協力をしていただき、ありがとうございます。また OB の皆様も事前の準備から協力していただきありがとうございます。

今年で 50 回を迎えた ACK・KIT Night ラリーを 60 回 70 回と続けていき九工大自動車部を盛りあげていきたいのでよろしくおねがいします。

平成24年度工学部自動車部決算報告

23.10.1～24.9.30

収入	金額	支出	金額
九州工業大学	¥300,000	大会参加費	¥96,052
OB会援助	¥218,000	維持費等	¥177,143
OB総会援助	¥10,000	エルフ車検代	¥190,590
部員負担	¥120,000	部車維持費	¥170,762
KIT Night ラリー	¥458,000	KIT Night ラリー	¥413,595
		平成25年度へ繰越	¥57,858
合計	¥1,106,000	合計	¥1,106,000

平成 24 年度活動報告(H23/10-H24/9)

OB 会 事務局 中西 彰(加 50)

【上期活動報告】 (OB 会員敬称略)

- H23/10/21 :OB 会事務局最終引継ぎ(岡山グランビアホテル1Fにて:元会計・事務局 嘉村/中西)
10/21 :大学学生係との部活動状況打合せ(工学部 事務長補佐 兼学生係長 武谷様/中西)
10/22 :現役幹部との部活動改善打合せ(工大食堂にて:現役幹部 岩田、渡辺、飯田、八尋/中西)
10/22 :【総会前役員会】 ”役員会議事録”参照
10/22-23 :【平成 23 年(第 6 回)OB 会総会】開催(九州地区主催)
11/5-6 :第 49 回 KIT ナイトラリー現役支援(JAF 公認九州 Jr.シリーズ)
12/17 :現役からの部車(ナンバー付き:SA車)入手支援要請検討開始
12/20 :流星 23 号発行
12/24 :関東地区忘年会(鳳龍倶楽部にて:古場、木村、佐伯、門司、宮崎、中西、武地、坂井、安永、
近藤、早田、楨本、太田、島原、計 14 名)
12/29 :関西地区忘年会(神戸元町/東亜食堂にて:中原、橘、木庭、田中、山崎、中西、計 6 名))
12/30 :餅つき会(徳尾モータースにて:現役との交流)
H24/1/10 :会則見直し検討委員会キックオフ(木庭、門司、伊東、川越、武地、中西)
3/中 :NOK クリューバとKIT・ACKとのスポンサー仲介(近藤)

【下期活動報告】 (OB 会員敬称略)

- H24/6/24 :関東地区 OB 会準備会(銀座えんにて:木村、門司、宮崎、中西、武地、早田 計 6 名)
9/20 :部活動援助費送金⇒OB 会会計から 218,000 円(武地)
9/20 :現役との交流会費送金⇒OB 会会計から 10,000 円(武地)
9/22 :NOK クリューバ(スポンサー)と現役との情報交換会仲介(工大講義室にて:現役 14 名、OB3 名)
9/22 :現役・OB交流会/懇親会(戸畑生涯学習センターにて:現役 14 名、OB7 名)

現役・OB交流会開催

中西 彰(金加 50)

2012 年 9 月 22 日(土)、北九州市戸畑区の戸畑生涯学習センターにおいて、「KITAC ”部活動の活性化に向けた”座談会」が、現役との交流会として開催されました。OBは木村会長をはじめ 7 名、現役はほぼ全員の 14 名で、出席者は合計 21 名でした。

座談会は、穴井OB担当(2 回生)が進行役となり、当日資料に基き進められました。

これからの部活動をさらに活性化するための活発な意見が出され、色々と課題はあるものの中身の濃い充実した座談会となりました。

【座談会テーマ】

- ①自動車部の現在の活動報告
- ②部員数増加について
- ③責善会部費増額について
- ④部車(SA車:ナンバー付き車両)確保について
- ⑤現在の自動車部の課題
- ⑥部活動支援のスポンサー確保報告

※ 詳細は、当日資料「“部活動の活性化に向けた”座談会(現役作成)」を参照願います。

座談会終了後、場所を懇親会場に移し、世代を越えた現役とOBの気さくな親睦の場として盛り上がりました。皆様、大変お疲れ様でした。

【補足；現役の主要課題】

1. 少ない部員数；現在の1回生を除いて10人と少なめ。部員数増加のために、4月に新入生を対象にカーント走行、フィギュア体験を実施。結果、7人の1年生が入部。
2. 責善会支給部費増額；部員数の増加、事務局との交渉、体育会役員を輩出の結果、増額された。
3. 部費は殆どがエルフの維持費（含む車検代）に消費 など

平成 25 年度活動計画(案) (H24/10-H25/9)

OB 会 事務局 中西 彰(加 50)

【上期活動計画】 (OB 会員敬称略)

H24/11/3-4 :第 50 回 KIT ナイトラリー現役支援(JAF 公認九州 Jr.シリーズ)

11/ 11 :【平成 25 年(第 7 回)OB 会総会】(中部地区主催)第1回実行委員会開催(キックオフ)

12/中 :流星 24 号発行

12/末 :餅つき会(徳尾モータースにて:現役との交流)

H25/1/ 12 :OB会関東地区新年会(親睦会)

1/ 26 :【平成 25 年(第 7 回)OB 会総会】(中部地区主催)第 2 回実行委員会開催

3/末 :部活動援助費送金

【下期活動計画】 (OB 会員敬称略)

H25/4/上～9/下:現役との交流会費送金

4/上～9/下:現役との交流会開催

4/上～9/下:【平成 25 年(第 7 回)OB 会総会】(中部地区主催)実行委員会開催

9/末 :部活動援助費送金

OB 会 24 年度会計報告、監査結果、25 年度予算(案)

OB 会 会計 武地伸佳(機 II 51)

24 年度会計報告

皆さんのお陰で例年の3倍の援助金が集まりました。会長の所感、現役のコメントにもあるようにどのように支援していくかを更に議論し、計画的かつ安定した支援の必要があります。皆様からの継続的なご支援をお願いします。

24 年度			
収入		支出	
前期繰越	158,077	振替手数料	7,170
会費	130,000	総会準備費	0
部活動援助費	220,000	24号印刷費	56,490
OB会カンパ	76,000	同 郵送代	25,470
総会余剰金	60,000	事務、通信費	1,148
		交通費	0
		現役との交流費	10,000
		部活動援助費	218,000
		次期繰り越し	325,799
合計	644,077		644,077

会計監査報告

会計監査 田中直方(化 45)

今年度の自動車部OB会 会計に関する帳票・領収書などの精査をしました。

決算報告は、適法・適正に処理されていました。

会 計 監 査 報 告 書	
平成24年11月7日	
明導・九州工大自動車部OB会	
会長 木村 知幸殿	
平成24年11月7日 明導・九州工大自動車部OB会 会計に関する帳票・領収書などを精査しました。その結果平成24年度の決算報告については、適法・適正に処理されていることを確認しました。	
以上報告いたします。	
会計監査	田中直方

25 年度OB会予算(案)

【考え方】

- ・会費は2年分をまとめて集めているので、多くの方が24年度中に払われており、25年度は少数と予測される。
- ・部活動援助費は、24年度は、23年10月の総会で皆さんに協力を呼びかけた効果があり、例年の約3倍が集まった。今年は、反動で半額と見積もった。
- ・支出欄の部活動援助費は、OB会内部留保を取り崩し、20万円を予定。そのため、次期繰り越しが、直近3度で最低レベルとなる。今後、現役への支援を現状レベルで維持するためには、収入の増加が必須。会員各位のご協力をお願いします。

25年度(案)			
収入		支出	
前期繰越	325,799	振替手数料	7,000
会費	0	総会準備費	40,000
部活動援助費	100,000	25号印刷費	60,000
OB会カンパ	38,000	同 郵送代	30,000
総会余剰金	0	事務、通信費	5,000
		交通費	5,000
		現役との交流費	10,000
		部活動援助費	200,000
		次期繰り越し	106,799
合計	463,799		463,799

OB 会 会費、部活動援助費、OB 会カンパ振込状況

皆様のご理解ご協力に感謝します。OB 会会費は、2 年に一度 2,000 円です。その他は毎年募集。

平成24年度 振替口座

No	口座月日	科	年	氏 名	会費	部活動援助費	OB会へ	合計
1	11月1日	機械	25	松尾憲一	¥4,000	¥3,000	¥3,000	¥10,000
2	11月9日	金属	37	門司和夫	¥2,000	¥4,000	¥4,000	¥10,000
3	11月10日	工化	35	山口博子	¥2,000	¥4,000	¥4,000	¥10,000
4	12月12日	機械	29	城 萬士	¥2,000			¥2,000
5	12月20日			鞍馬英司	¥2,000	¥7,000	¥1,000	¥10,000
6	12月21日	制御	58	島村秀司	¥2,000	¥3,000		¥5,000
7				林田正三	¥2,000			¥2,000
8		開土	45	八木 浩	¥2,000	¥10,000		¥12,000
9		機械	23	舩谷圭一	¥2,000			¥2,000
10	12月22日	電子	46	中野 悟	¥2,000	¥3,000		¥5,000
11		機械	25	中野大典	¥2,000	¥5,000	¥3,000	¥10,000
12				芳賀義昭	¥2,000	¥1,000	¥1,000	¥4,000
13		電気	39	松本 静	¥2,000	3000		¥5,000
14	12月24日	機械	H15	村井健太郎	¥2,000			¥2,000
15		制御	46	山本正樹	¥2,000	¥3,000		¥5,000
16		電子	44	伊東和俊	¥2,000	¥6,000	¥2,000	¥10,000
17	12月26日	機械	23	紀田兼昭	¥2,000		¥8,000	¥10,000
18		電気	44	藤田嘉彦	¥2,000	¥50,000	¥10,000	¥62,000
19		金加	50	中西 彰	¥2,000	¥2,000	¥1,000	¥5,000
20		鉦山	36	香月春彦	¥2,000	¥5,000	¥5,000	¥12,000
21		機械	36	飯田久泰	¥2,000	¥8,000		¥10,000
22		機械	H13	山ノ口智誉	¥2,000	¥5,000		¥7,000
23		機知	H17	犬丸 卓	¥2,000	¥10,000		¥12,000
24		機械	52	坂井典次	¥2,000	¥2,000	¥1,000	¥5,000
25		機械	48	古本正春	¥2,000	¥2,000	¥1,000	¥5,000
26	12月27日	電気	43	宇塚和則	¥2,000	¥2,000		¥4,000
27		機械	39	宮崎武士	¥2,000			¥2,000
28		金属	53	八木 繁	¥2,000	¥10,000	¥2,000	¥14,000
29	12月28日	機械	25	白石達男	¥2,000			¥2,000
30		電子	54	早田洋一	¥2,000	¥6,000	¥2,000	¥10,000
31	12月31日	機	51	武地伸佳	¥2,000	¥2,000	¥1,000	¥5,000
32	2012年1月4日			塚田忠正	¥2,000	¥1,000		¥3,000
33		金属	55	孝橋生郎	¥2,000	¥2,000	¥1,000	¥5,000
34		金属	59	大井倫夫	¥2,000	¥10,000	¥3,000	¥15,000
35		機	54	山下能史	¥2,000	¥3,000		¥5,000
36	1月5日	鉦山	33	斉藤健治	¥2,000			¥2,000
37		電気	49	山崎賢二	¥2,000	¥3,000		¥5,000
38		制御	54	近藤務	¥2,000	¥1,000	¥1,000	¥4,000
39		化学	33	柏木 坦	¥2,000			¥2,000
40	1月10日	機械	39	中原保明	¥2,000	¥1,000	¥2,000	¥5,000
41		金加	48	高見法生	¥2,000	¥2,000	¥1,000	¥5,000
42	1月11日	化学	23	青木昭二	¥2,000	¥1,000		¥3,000
43	1月12日	化学	33	嘉村 剛	¥2,000	¥1,000		¥3,000
44	1月16日	電子	52	安永 智	¥2,000	¥4,000	¥4,000	¥10,000
45	1月19日	機械	46	佐藤久雄	¥2,000	¥3,000		¥5,000
46	1月24日	制御	48	泡田秀美	¥2,000			¥2,000
47	1月27日	機械	43	木庭敬士	¥2,000	¥5,000		¥7,000
48	1月30日	制御	H1	谷口 浩	¥2,000	¥1,000	¥1,000	¥4,000
49	2月1日			松原正巳	¥2,000	¥10,000		¥12,000
50	2月1日			山下利彦	¥2,000			¥2,000
51	2月2日	機械	49	堀川浩司	¥2,000	¥2,000	¥2,000	¥6,000
52	2月7日	制御	48	小泉 豊	¥2,000	¥2,000	¥2,000	¥6,000
53	2月8日			上妻英敏	¥2,000			¥2,000
54	2月15日	機械	35	進藤牧人	¥2,000		¥1,000	¥3,000
55	2月28日	機械	33	古屋	¥2,000	¥2,000	¥2,000	¥6,000
56	3月2日	機械	54	舩重 豊	¥2,000			¥2,000
57	3月5日	制御	40	木田 諄	¥2,000			¥2,000
58	3月8日	鉦山	30	中島福雄	¥2,000			¥2,000
59	3月28日	電子	44	井上KAZUMASA	¥2,000			¥2,000
60	4月3日	電気	46	新開浩一	¥2,000			¥2,000
61	4月5日	制御	49	河野文隆	¥2,000	¥2,000	¥1,000	¥5,000
62	4月19日	機械	50	佐伯行信	¥2,000	¥2,000	¥1,000	¥5,000
63	8月2日	テ	32	安光信義	¥2,000	¥4,000	¥4,000	¥10,000
64	9月24日	化	47	川越光広	¥2,000	¥2,000	¥1,000	¥5,000
		小計			¥130,000	¥220,000	¥76,000	¥426,000
参考; 平均					¥2,031	¥3,438	¥1,188	¥6,656

平成25年度 振替口座

1	11月2日	化	45	田中直方	¥2,000	¥5,000	-	¥7,000
2	11月26日	金加	50	中西彰	¥2,000	¥4,000	¥2,000	¥8,000

青春時代のひとこま

九州地区 副幹事 柴田博幸(化 45)

すでに 45 年以上の歳月が流れてしまった。私が九工大に入学したのは、昭和 41 年の桜が咲く 4 月であった。

明治の建築界巨匠といわれた辰野金吾が設計した本館にて、健康診断を受けた記憶が蘇ってくる。床がギンギンと音がする古色蒼然とした風格ある木造建築でした。今、話題となっている東京駅を設計したあの辰野金吾と明治専門学校の繋がりを、恥ずかしながら、最近になって、知ることとなりました。明治という時代、自国の隆盛を願い、浄財を投じて明治専門学校の設立に奔走された安川敬一郎、松本健次郎父子の姿に心揺さぶられ、明治専門学校の設計を願い出たということである。(無論、無償による申し出である。明治人の心意気に触れる思いがします。又、明治学園の創設は、明治専門学校の教授の子弟を教育するために造られたものであることも、最近、知りました。)明治に造られた木造の学寮群が、昭和の時代、寮として、部室として活用され、自動車部の部室も、その一つであった。当時、伊藤先輩(昭和 40 年入学:主将)が、主(あるじ)として住まれていた。ある日、伊藤先輩が、部室の前で七輪の上に秋刀魚を載せ、パタパタとうちわを扇いでいる姿を見つけた。これ幸いと舌鼓し、お酒と共に頂戴したことを懐かしく思い出します。明治の匂いがぶんぶんする学寮の一角で、部員達が主(あるじ)の迷惑も顧みず、休講といったは暇を潰しに部室へと押しかけていましたね。迷惑千万だったと思いますが、なすがままにという風情で優しい先輩でした。その後、伊藤先輩、同級の田中直方、更に、山本正樹と引き継がれました。この自動車部の部室は、今は、影も形もありません。

休みを利用した山陰、北陸遠征は、思い出深いものでした。自動車部の制服(紺色のジャンパー)を皆で新調、

いざ、遠征へ…という高揚感が溢れてました。誰がデザインしたのでしょうか？なかなかお洒落なものでしたね。鳥取砂丘の浜辺で、波うちぎわの固くなった砂浜を波しぶきをあげながら、アクセルを思い切り踏み込んだあの爽快な気分、北陸能登半島の海岸沿いの道が、えっ、これが国道なの？狭い曲がりくねった悪路にぶつぶつ言いながら目指した金沢、雪の兼六公園、坂の急勾配を走る電車、趣ある街並みでした。思いだしても、北陸遠征は楽しかったなあ。

私が、自動車部へ貢献できたのは、何だろうか？ナイトラリーで、タイガー計算機を回し続けたことか？

違います。お金集めに貢献したことでしょうか。当時、自動車購入の金策として、ダンスパーティを主催し、出来うる限り券を売りまくり、収入源とすることでした。キャバレーを借り上げ、必要経費を抑えるべくコスト削減交渉、そして優秀な販売員として、恥をかなぐり捨てて某女子大へと飛び込み営業に走り回ったこと、流星号を出版するため、広告料集めに近隣商店へ頭をさげ、出版費用捻出に一役かったこと、流星号の編集に関わったことが思い出されます。

もう、あれから45年、あっという間に歳月が流れました。振り返ると、いろいろとありましたが、まあまあ、いい人生だったと思っています。欲張りな私は、これから先も、そう言えるように、幸運の女神にお願いしております。最後に、皆様がたのご健康とご幸運をお祈りして、拙い文にお別れと致します。

ありがとうございました。

追記:

昨年の自動車部 OB 総会の実行委員長で活躍いただいた川崎博久先輩が、今年の春、ご逝去されました。心からご冥福をお祈りします。

=====

私と自動車部

関西地区副幹事 山崎賢二(電気 49)

1. 自動車部の思い出

2週間程前、近所の道路を 25 歳の我が家の末娘の仮免許の路上教習につきあひながらの会話です。最近では街で自動車学校の車以外の路上教習は滅多にみかけませんが、前々から娘にお父さんは自動車部出身だから教えるのがうまい筈なので、卒業試験の前には付き合っって頼まれていて断りきれずに手作りのプレートを車の前後に付けて恐る恐るやってみました。(お陰で娘は先日、卒業検定を合格しました)

その時、若いときの様々な思い出がよみがえってきました。

「お父さんは、大学一年の時に隣町の小倉にある免許試験場に 16 回も通って苦労して合格し、ようやく免許証を貰った。それだけに免許のありがたみが他の人の何倍もあるんだよ。お陰で一年の夏休みは免許取得と大阪万博で終わってしまい、他の思い出が無いくらいだよ。」

自宅が戸畑で、自宅通学でフリーな時間が結構あるため何気なく入った自動車部ですが、その後の私の人生に本当に多大な良い影響を頂きました。

免許取得、タイガーの手回し計算機によるラリーのナビ、遠征参加、あしなが育英会の募金活動(動機は少し不純なところもありましたが)、部の運営資金の足しにするためのエルフによるバイトや学園祭でのおでん屋の徹夜での見張り、部室での明トラ、チームKITちゃんという部内のチームでコルトのラリーカーを共有し活動したこと等々と懐かしい思い出は数え切れない程ありますが、やはり先輩・同期・後輩で、同じ部車に乗り継ぎたくさんの共有できる思い出が持てたことが一番の収穫だと思います。この部車を共有した思いから良好な縦の関係が維持されOB会の総会が盛況の内に継続されていると思います。

2. 2009 年関西地区総会の思い出

まだ仕事の現役中でありましたが、総会事務局を担当させていただき、51名という多くの方に参加頂き大成功に終わったことは大変いい思い出となっています。準備の過程で 30 年ぶり、40 年ぶりに声を聞き、懐かし

がったり、「定年まで海外で頑張るから参加できない」という知らせを受けたり、多くの感動を体験できました。

準備には関係者 10 名で少ない人数ながら結束してカバーし合い、木庭さんのリーダーシップと古河さんの緻密さでなんとか無事開催にこぎつけたことは大きな喜びです。

又、皆さんと連帯感を深めることができ協力して、引き続きお付き合いしていただき、人生の糧となっており、大変助かっています。

私は 7 年前の愛知、5 年前の熱海と参加させてもらい、出席者の皆さんから多くの元気を貰いました。特に初参加の皆様が「参加して良かった、次も又会おう」と言ってもらえたのが、私ども事務局一同にとって大変嬉しい言葉でした。

3. 愛車の思い出

大学一年の終わりに卒業する先輩からホンダN360を5万円で譲り受け日本中走り回ったのを皮切りに、その後、親に借金してニッサンチェリーを20万円で手にし、卒業後親に月賦で返済しました。その後4年間は大阪市内の独身寮で車を持たず、業務で南米アルゼンチンに駐在し現地組立てのフランスのプジョー504に3年間、中米グアテマラでトヨタパブリカに1年間乗り、30歳で日本に戻り、海外勤務で当時は1ドル240円程度のため多少リッチとなり、当時としては最先端のターボ付き三菱コルディアの新車をキャッシュで買えました。その後家族を持ってホンダシビック、トヨタカルディナ、マツダデミオ、ベンツC200と乗り継ぎ、今は家内のリクエストでVWのビートルに似ているということで黒のニッサンマーチに乗っています。家族を持って以来、自動車部出身にしてはメーカー・車種にこだわらずにきていましたが次は終(つい)の車になりそうなので、今度こそはこだわりを持って何にしようかなと検討している所です。近い将来どのようなハイブリッドカー、電気自動車が実現するかも興味津々なところですよ。

4. 終わりに

30代、40代は仕事と家庭に追われ、過去を顧みる余裕がありませんでしたが、昨年、勤めていた電器メーカー

を定年で辞め、少しは時間に余裕ができました。いまだに自動車関係・モータースポーツのニュース等が気になり、家族から「そんなに好きだったら、なんで、自動車メーカーに就職しなかったのか？」とまだ言われ続けています。ほんの一部の人を除いて、好きなことをして食べて生けるほど人生は甘くないと家族には答えています。自動車部に入っていて本当に良かったと思います。

今年の4月に関西地区のOBの歩こう会に、デビューさせて貰い、諸先輩に導いて頂き、京都の御所の公開日ということで人生初めて訪問することができ、日本人に生まれてきたことの再認識をし、貴重な体験をさせても

らいました。この縁を大切にして引き続き宜しくお願いしたいと思います。以上



=====

- 特別企画1;地区幹事と自動車部(自動車) -

自動車部の思い出と感謝・お礼

中京支部 副幹事 河野文隆(制御 49)

制御S49 年卒業、部活では、主将・監督を務めました。いつも、仲の良い先輩・同僚・後輩と一緒に、ラリー、フィギュア、構造、など。自動車学校に行かずに、免許が取れると言う魅力にひかれ入部。試験場に行き、筆記試験通れば、2 回実技試験を受けられる。10 回程の実技試験で、合格をした。

部の資金調達として、ダンスパーティの主催も行った。遠征も、楽しかった。仲の良い先輩・後輩及び、同期のメンバ。

マナーや運転の基本:先輩指導:『道路に入る時、横入りする時、絶対、後ろの車に、ブレーキを踏ますな。』徳尾三郎さんに、指導・支援を受けながら、KITラリーの開催。事前の試走時、腕のいいN君の運転の車がコースアウト:木に止められなければ、崖の下との思い出があります。

今年、第 50 回 KIT Night ラリーの状況を聞き、継続は力:ACK・KITOBの方々に、支えられながら、継続をしている様子を聞きました。

当時の部のメイン活動はラリーで、学生ラリー、一般ラリーへの参加。車は、ホンダZ、コルツ 11F、カローラレビンで参戦:ナビは、先輩のKさん。

後半は、同僚・後輩と出場し、優勝含め、多くの賞を戴きました。卒業前の12月に、2回優勝、1回2位、1回4

位の好成績を覚えています。ナビはS君、カリはT君でした。

愛知県の自動車会社T社に入り、生産技術部門で、海外駐在も2回、計8.5年間。そして、関係会社の役員を含め、38年間、日本の自動車産業の発展・活動の中で、仕事が出来たことに感謝の気持ちと幸せを感じています。その起点になったのが、九工大自動車部です。その時の仲間と会え、過ごしたことが原点だと思っています。

明専会の活動が中京支部では活発で、今年の6月の総会では、180 名が集まりました。

また、自動車部の来年の総会に向け、新城ラリーを目玉に出来ないかなど、準備を開始しました。ぜひ、多くの方々の御出席を願っています。以上、感謝とお礼の気持ちです。

写真は、当時、参戦したカローラレビンとクルーです。



いつかはクラウン

関東地区副幹事 宮崎 武士 (機 39)

私の自動車との関わりを考える時、やはり、50年前の九工大自動車部(1960.4～1964.3)に遡ることになる。当時、部車として、公道を走れるナンバー付の車が2台あった。

1台は、小型トラックのトヨエース。引越しのアルバイトで部費を稼いでいた。しかし、この車の最大の貢献は、車の構造を部員に教える実験台になってくれたことである。毎年、夏休みになると、車検を取る事を目標に、エンジンを降ろし、オーバーホールに全員が執りかかる、のである。バラバラに分解して、修理後、再組立てを行い、エンジンが起動した時の感動は、入学初年度の経験としては、大きなものであった。

もう1台は、福岡トヨタから、無償貸与という形で、供与されていたクラウンである。

クラウンの主たる用途は、ラリーという対外試合への出場であった。しかし、自動車部が非常に多くの部員を集めていた理由の一つは、部車を使って、校内で運転実技の指導を受け、近くの運転試験場で受験するという、運転免許取得への道が有ったからとも云える。

しかも、1960年に法改正が有り、実技試験がトラックを使っての時間内のコース切りから乗用車を使っての比較的長い時間の路上運転を模したものに変更になり、受験前にこのクラウンを使って運転指導を受け、S字バックを練習した。免許を取得し、恒例のぜんざいコンパをやると先輩のサポート付きで校外での部車の運転が許されることになる。先輩の公用外出に、如何にお供をして、クラウンの運転をさせてもらうかを競ったものである。

私の所有車第1号は、すずきフロンテ(360cc、3気筒、2サイクル、1967年)の新車で、子供の病院送迎用緊急車両の位置づけで、取得。(女房殿に感謝)今から35年位前に所有していた第2号車のコロナ1500(中古車)には、初代クラウンに搭載されていたものと同型式のエンジン(RS50?)が搭載されていることを知って、嬉しかった記憶がある。

この頃の車は、ボンネットを開けて、エンジンルームを

覗くと電気系統、燃料系統、冷却水系統、等の構造が解かり、始業点検等も運転の都度実施していた。時々、暖房が利かなくなり、エンジンからの冷却水戻りホースが繋がるラジエーター入口の温調用サーモスタットを取り外して、錆で動きが悪くなっているスプリングの掃除、修理もした。この冷却水戻りホースでは、大変なトラブルも経験した。西宮市在住で、京都へのドライブの帰り道、名神高速天王山トンネルを通過した辺りで、突如、バスッ！という音がして、フロントガラスに茶色の水が飛び散った。慌てて、道路わきに停車して、ボンネットを開けてみると、かの冷却水ホースが縦に裂けていた。ここからが大変。持っていたのは、広幅のビニールテープと4Lの水タンクだけ。このテープを巻きつけて、最寄りのSAにたどり着き、まず給水。しかし、テープが伸びて水漏れを完全に止められなかった。最寄りのICから一般道に降りて、石油スタンドをハシゴしながら、停車しては給水、を繰り返して、なんとか我が家にたどり着いた。奇跡。

その後、クラウン(中古車、1500cc、初めてのAT車)、カローラ(新車)、コロナ(中古車)を経て、1993年、待望のクラウンロイヤル(新車、3000cc)を手に入れた。クラウンのキャッチコピーに有る、「いつかはクラウン」に届いた瞬間であった。

(福岡トヨタの学生への小さなサービスがトヨタファンを育てるという大きな効果に繋がった一例)以後、3年毎に新車を乗り継ぎ、2005年に現在の愛車ゼロクラウン(クラウン生誕50周年記念特別仕様車3.0ロイヤルサルーン)に到達した。

自分の運転寿命と愛車の寿命とどちらが長い競争中である。

ただ、残念なのは、クラウンに到達以降、ボンネットを開けても、どうなっているのか、さっぱり解からないことである。現在は、バッテリー液のチェックも不要となり、当然のことではあるが、始業点検等は、この20年やったことが無い。

「私、車に乗る人」になり果てました。以上

城先輩からの手紙

H23 年の九州地区でのOB会総会にご出席できなかった城先輩から実行委員長の川崎先輩に届いた手紙です。九工大の歴史が判る史料価値が有り、また城先輩からのご認可を受けたのでそのまま掲載します(同文が

HP にも掲載されています)。

手紙を流星に掲載することをご提案いただいた川崎先輩が先日お亡くなりになりました。ご冥福をお祈り申し上げます。

H23.10.17

〒811-

福岡市

川崎 博久 様

〒485-

小牧市

城 萬士

TEL & FAX

同窓会ご案内のお手紙を頂きながら 大変ご無沙汰いたし申し訳ありません。

暫く体調不良で ぐずぐずしていましたが、本日医者を訪ねて、先に受診していた健康診断の結果を聞いてきましたが、年相応の状態だと判定でした。(数年前から心臓弁膜症で手術も勧められましたが、リスクもありますので現状維持です。)

私 老人になってから急に体質が変わり ひどい薬アレルギーになりましたので 薬のお世話にならないですむような生活を心がけています。

外食も何かトラブルが起こった場合薬を飲めないのも、食事を伴う会合は golf なども含めて 総て避けるようにしています。

博多には法事で帰ることがありますので 機会があれば皆さん方にもお目にかかりたいと思います。

由緒ある工作機械が屋外展示になったのは新聞で知りましたが、100 周年事業計画中の頃、これらの機械を大切に取扱っていただくよう大学にお願いしていたのですが結果は悪いほうになってしまいました。

屋外で使われる自動車、航空機、鉄道車両 などでも屋内展示保存が主流ですが、温度管理された室内で大切に使用される精密工作機械が屋外に置いてあるのは感覚的にもなじみません。学生食堂の隅でも良いから適切な案内表示付きで誰でも触れるように展示してもらいたかったものです。

新荘先生がおられたらこのようなおかしな展示にはならなかったと思います。

SIP のジグ中ぐり盤は 戦前の世界最高のもので 東京リリックより前の頃に 私はこの機械を造っている 米の工場を見てきました。 その他にも屋外展示してあるかと思いますが、開学当時に設置された アメリカン ワークス 製の機械は歴史的にも貴重な物です、この ATW 社は シンチ にあり 私の前勤務先の技術提携相手でした。

九州工大の SLP は S/N 416 で京都大学の同じ機械（多分大阪造兵廠から疎開工場へ移設されていたものと思いますが）は少し新しく S/N 643 です。京大で、明治 36 年頃に造られた鋼造りの機械工場を平成の時代になって解体する時に、この機械を買い受けようと思いましたが、新工場の一番奥に据付けて大切に扱う事になり譲ってもらえませんでした。

べりウ工科大学では 正面入口から入ったガラス張りの回廊に沿って古い工作機械がたくさん展示しており 羨ましい姿です。

さて送っていただきました集書の copy は私が書いたのかも知れませんが、蒲田の *スグ* になっていますので新在先生にお願いして投函してもらったと思います（昭 34. 3. 16 は月曜日）。

この時の写真を探しましたが見つかりませんので、前半の OB 会（昭 33.02.00）の写真をお届けします。前列右から 松村氏、先生、溝口氏、後列右から 島氏、笠原氏、古場氏と私です。この寄せ書きに先生が書いておられるマスターを借りて乗っていたときの写真を同封しました。この後間もなく 先生はクラウンに買い換えられました。

私は *スーパービシ* と書いていますが、この *カー* は先生から譲っていただいた物です。

私は 翌年最初の子供が生まれたときに中古の *デガヤ* を買いました。

退職後は安全をお金で買えるなと思ってベンの *ワグス* を買いました（簡素なデザイン、新構想のプラットフォーム、日本初の *サイドエグザ* 付き市販車などで）。2 年前の写真と同封しました。

この車に 15 年乗りましたが *タワ*、*バッテリー*、*タイマー* の *ゴム* 以外は交換することなくランゲコストは低く、立派に走りました。

未だ新車の輝きもありましたが、これから先の自動車との付き合いを予測して早目に次の車を買って、この夏に（子供たちが訪ねて来たときに気持に *パドル* をにぎってもらえるように）1 ランク下の小さい *C グラス* に買い直しました。

今度の車には これから 15 年も *パドル* をにぎる事は無いと思いますが。

たまたま 明日この古い車を引き取りに来ると言う日に、廣田さんから 仕事で名古屋に来たと電話があり、近くの駅まで来ていただいてお目にかかりました。この時が *ラストラン* になりました。

私は昭和 25 年以来 自動車技術会の会員ですが、今月号の切り抜きをお届けします。九州工大でも学生 *ファミラ* に出ているようですが、ものづくりの楽しさ難しさなどが書いてありますので。

この手紙が OB 会に間に合えば 同世代の皆さんに よろしくお伝えください。

（写真 1 おを探さずに *ブルカ* で copy したため 周囲が黒い色上がりも悪くなっています）

川崎先輩(ニテ 26)ご逝去

九州地区副幹事 山本正樹(制 46)

平成 23 年の自動車部 OB 総会の実行委員長で活躍いただいた、川崎博久先輩がさる4月6日、急性骨髄性白血病でご逝去されました。86歳でした。

平成 22 年の春から約 2 年間実行委員長として実行委員全員を引張って活躍され平成 23 年の自動車部 OB 総会を成功させました。

会合は一日も欠かさず出席され、後輩の面倒見も良く敬服するばかりでした。

心からご冥福をお祈りいたします。

「明専会報 7, 8 月号の訃報欄」に掲載されましたので、ご存知の方も多いと思いますが、自動車部 OB の皆様に改めてご連絡いたします。

奥様(川崎律子様)のお話ですと、いつもお元気にお暮してましたが、鼻がむずむずして風邪かもしれないということで、病院に行き、精密検査ということになって発

見されたそうですが、それから二週間で帰らぬ人になってしまいました。

住所や電話番号を必要な方は、私宛に返信メールしていただければ、改めてご案内いたします。

山本正樹(九工大制御 46 年卒)

TEL/FAX: 093-434-5510

携帯: 090-2187-9397

Email: masakiy@ninus.ocn.ne.jp

中京地区平成 25 年の OB 会総会予告:

中京地区 幹事 川越光廣

13 年 10 月 26～27 日を予定しています(新城ラリー日程により1～2 週の変更の可能性あり)。

地域活性とラリーが結びついたイベントである 新城ラリー(<http://www.shinshirally.jp>) の見学やカート大会で「あのころ(若き日々)を思い出していただく」をテーマに、企画中です。

宿泊は蒲郡周辺の温泉の予定です。

皆様の万障繰り合わせてのご参加をお待ちしています。まずは、カレンダーに日程確保をお願いします。

会員名簿

会員名簿は個人情報になりますので、お取扱にご注意をお願いします。

住所が空欄の方は、連絡方法がありません。ご存知の方が居られましたら、ご本人様に、流星担当 武地 (19 ページに住所、Email アドレス掲示) に連絡いただこうお伝え願います。住所は、流星の配布やOB会からのご連絡に使います。住所の記録がある方でも流星が返送されます。皆様も連絡先変更をご連絡いただけると幸いです。また、郡・市も掲載を希望されない方はお申し出下さい。住所欄を見えないようにします。

九州工業大学 責善会 自動車部OB会名簿(2012.11.29)

学科	卒年	氏名	地域	都道府県	郡市
キ	17	豊田侃信	九州	熊本県	八代市
キ	18	芳賀敏夫	中部	石川県	金沢市
キ	18	馬場忠士(星塚)			
コ	21	渡辺博孝			
ヤ	22	石飛英二	九州	福岡県	福岡市
キ	22	上妻英敏	中国	広島県	広島市
キ	22	田辺益男			
力	23	青木昭二	九州	福岡県	北九州市
キ	23	大田 満	九州	福岡県	遠賀郡
キ	23	大野周三	九州	福岡県	北九州市
キ	23	紀田兼昭	九州	大分県	杵築市
キ	23	小林良一	九州	福岡県	宗像市
キ	23	坂本将之	九州	大分県	宇佐市
キ	23	舩谷圭一	近畿	大阪府	豊中市
力	24	岩本博康	関東	東京都	昭島市
テ	24	森山昌和	関東	茨城県	日立市
キ	25	島崎俊雄(雄英)	関東	東京都	練馬区
キ	25	白石達男	九州	福岡県	福津市
キ	25	中野大典	中部	愛知県	名古屋
テ	25	別所禮治	近畿	奈良県	生駒市
キ	25	松尾憲一	九州	福岡県	福岡市
キ	26	窪山郁雄			
キ	26	塚田忠正	九州	福岡県	北九州市
金	28	島 昭人	関東	東京都	板橋区
機	28	山田 稔	関東	神奈川県	藤沢市
化	28	八木和夫	関東	茨城県	水戸市
機	29	城 薫士	中部	愛知県	小牧市
電	29	廣田佳男	関東	千葉県	千葉市
機	29	山田靖彦	関東	千葉県	柏市
鉦	30	中島福雄	関東	東京都	町田市
鉦	30	渡邊 聰	関東	東京都	江東区
鉦	31	河相良行	関東	千葉県	船橋市
機	31	古場義輝	関東	神奈川県	横浜
機	32	楠田洋一	九州	大分県	大分市
化	32	丸山英世	関東	神奈川県	横浜
機	32	安光信義	近畿	兵庫県	姫路市
電	33	池田 恒	関東	千葉県	流山市
鉦	33	柏木 坦	中国	岡山県	倉敷市
化	33	嘉村 剛	中国	岡山県	岡山市
金	33	久保田達之	近畿	大阪府	堺市
機	33	小堀哲雄	関東	茨城県	水戸市
鉦	33	齋藤健治	九州	鹿児島県	国分市
機	33	中村俊明	関東	埼玉県	春日部市
化	33	林田正三	関東	千葉県	千葉市
機	33	古屋 侃	関東	神奈川県	相模原市
電	33	松吉 一	関東	神奈川県	横浜
機	34	塩谷恭一			
化	34	白橋英憲	関東	東京都	小平市
機	34	富田凡人			
鉦	35	信国之雄	九州	福岡県	中間市
機	35	進藤牧人	関東	東京都	東村山市
化	35	山口博子	九州	熊本県	熊本市
機	36	飯田久泰	九州	福岡県	福岡市
鉦	36	香月春彦	関東	埼玉県	蓮田市
機	36	木村知幸	関東	千葉県	佐倉市
機	36	佐伯晃一	関東	千葉県	流山市
電	36	谷岡芳則			
電	36	久富貞夫	中国	広島県	広島市
電	37	小野正雄	九州	福岡県	福岡市
機	37	木島保寿	関東	神奈川県	相模原市
電	37	木村明郎	関東	神奈川県	綾瀬市
金	37	門司和夫	関東	東京都	国分寺市
化	37	山田俊雄	近畿	三重県	津市
電	38	犬塚俊夫	近畿	大阪府	豊中市
電	38	栗本純治	関東	神奈川県	横浜
電	38	高橋清臣	中部	愛知県	名古屋
化	38	花田正幸	九州	福岡県	北九州市
電	38	藤本 昇			
電	38	益田和夫	近畿	奈良県	奈良市
化	38	宮原克彦			

学科	卒年	氏名	地域	都道府県	郡市
金	39	小宮陸雄	九州	福岡県	北九州市
機	39	砂本克也	関東	神奈川県	相模原市
電	39	高宗肇			
電	39	田中一成	九州	福岡県	京都府
機	39	常富容史	中国	岡山県	倉敷市
金	39	友永三千人	九州	大分県	別府市
機	39	中原保明	近畿	京都府	京都市
化	39	浜田哲夫	関東	神奈川県	鎌倉市
電	39	松本 静	九州	福岡県	北九州市
機	39	三隅紀久雄	中国	山口県	宇部市
機	39	宮崎武士	関東	茨城県	土浦市
機	39	横田 登	関東	栃木県	入間市
鉦	39	吉武美昭	九州	大分県	大分市
機	39	米倉博幸	関東	神奈川県	相模原市
電	40	石原洋文			
化	40	梅山安德	関東	東京都	府中市
二機	40	大庭公秀	九州	福岡県	北九州市
制	40	木田 諒	関東	東京都	板橋区
電	40	橋 正	近畿	兵庫県	神戸市
制	40	六代 慧	関東	埼玉県	さいたま市
開	41	Rustam Teuku	海外	Indonesia	Jakarta
機	41	金児 洋	中国	山口県	宇部市
金	41	甲村武史	九州	福岡県	福岡市
開	41	西岡康博	関東	群馬県	高崎市
金	41	山田浩司	九州	大分県	日田市
制	42	市丸博之	九州	福岡県	福岡市
化	42	尾崎邦夫	九州	宮崎県	児湯郡
電	42	片岡弘之			
電	42	加藤敏光	関東	神奈川県	川崎市
二電	42	谷口義明	関東	千葉県	千葉市
電	42	芳賀義昭	九州	福岡県	北九州市
電	42	浜本 悟			
機	43	宇塚和則	中国	広島県	安芸郡
機	43	木庭敏士	近畿	兵庫県	川西市
金	43	進藤八州男			
金	43	高崎晴之	関東	千葉県	鎌ヶ谷市
電	43	長澤清洲	九州	福岡県	福岡市
金	43	中島喜満	関東	千葉県	千葉市
化	43	森永宏樹	関東	茨城県	笠間市
制	43	山根泰宇	関東	東京都	立川市
電	43	山本一明	関東	神奈川県	横浜
子	44	伊東和俊	九州	大分県	大分市
子	44	井上式正	海外		Monterey Park
電	44	大木 宏	関東	千葉県	船橋市
機	44	小笠原健治	関東	東京都	大田区
機	44	掛水典義	九州	福岡県	福岡市
二電	44	熊本博司	九州	佐賀県	唐津市
機	44	鶴長恭明			
電	44	藤田嘉彦	九州	福岡県	北九州市
機	44	松原正巳	中部	静岡県	富士市
機	44	渡辺正嗣			
機	45	釘宮尚正	中部	愛知県	豊田市
子	45	坂本恒之輔	九州	福岡県	福岡市
化	45	柴田博幸	関東	東京都	杉並区
化	45	田中直方	近畿	兵庫県	神戸市
開	45	八木 浩	関東	東京都	杉並区
金	46	鞍馬英司	中国	山口県	宇部市
機	46	佐藤久雄	関東	東京都	武蔵村山市
電	46	新開浩一	関東	千葉県	佐倉市
子	46	中野 悟	関東	神奈川県	藤沢市
制	46	野見山章	九州	福岡県	福岡市
機	46	檀原耕造			
制	46	福永 茂	関東	埼玉県	日高市
子	46	細川義寛	中部	愛知県	日進市
機	46	山本賢治	九州	福岡県	中間市
制	46	山本正樹	九州	福岡県	京都府
金	46	古河洋文	近畿	兵庫県	姫路市
二電	46	杉 謙一郎	関東	茨城県	北茨城市
機	47	安部公良	近畿	和歌山県	那賀郡
化	47	川越光廣	中部	愛知県	岡崎市

学科	卒年	氏名	地域	都道府県	郡市
制	47	鳥飼 潤	近畿	滋賀県	大津市
制	47	濱田兼幸	九州	福岡県	北九州市
化	47	森田俊治	近畿	大阪府	八尾市
制	48	泡田秀美	中国	鳥取県	鳥取市
加	48	井上 巧	近畿	兵庫県	姫路市
加	48	大庭昭二	関東	東京都	杉並区
制	48	小泉 豊	近畿	兵庫県	神戸市
加	48	高見法生	九州	福岡県	北九州市
機	48	長尾彰士	中国	広島県	広島市
子	48	平松和彦	中国	広島県	東広島市
機2	48	古本正春	中国	広島県	広島市
子	48	村上博行	関東	神奈川県	川崎市
制	49	河野文隆	中部	愛知県	豊田
機	49	近藤健二			
電	49	佐藤修一	関東	千葉県	君津市
機	49	時松和壽	関東	神奈川県	川崎市
化	49	刀襦文廣	関東	千葉県	市原市
機	49	堀川浩司	中国	山口県	岩国市
電	49	宮本洋一	中部	愛知県	岡崎市
電	49	山崎賢二	近畿	兵庫県	宝塚市
機2	49	山地 博	九州	福岡県	北九州市
子	50	浅野一学			
機	50	牛島秀幸	九州	福岡県	北九州市
機	50	黒瀬文雄	関東	千葉県	千葉市
機	50	佐伯行信	関東	神奈川県	横浜
加	50	首藤光生	九州	大分県	大分市
機	50	田中文夫	九州	長崎県	長崎市
金	50	島越 清	九州	宮崎県	宮崎市
加	50	中西 彰	関東	滋賀県	大津市
制	50	西 裕二	中部	愛知県	稲沢市
情	50	晴田和夫	中国	岡山県	岡山市
化	50	畑中修二			
機	50	溝尻 浩	中部	愛知県	岡崎市
開	50	吉川吉久	九州	長崎県	西彼杵郡
加	51	白倉義弘	中部	富山県	新湊市
機2	51	武地伸佳	関東	神奈川県	横浜
機2	51	本吉 智	関東	神奈川県	海老名市
機	52	坂井典次	関東	埼玉県	ふじみ野市
機	52	石田 浩	近畿	三重県	四日市市
加	52	坂井靖司	関東	埼玉県	鶴ヶ島市
金	52	嶋田 一郎	九州	長崎県	佐世保市
制	52	永田義行	中部	愛知県	岡崎市
機	52	中野博志	九州	福岡県	北九州市
制	52	野瀬 聡			
金	52	房前 悟	関東	千葉県	市川市
開	52	松本正生	九州	熊本県	熊本市
開	52	の場俊昌			
子	52	安永 智	関東	神奈川県	横浜
金	53	江頭和昭	関東	東京都	八王子市
子	53	政近 均	九州	大分県	大分市
情	53	三浦 巧	九州	福岡県	北九州市
金	53	八木 繁	九州	長崎県	南高来郡
情	55	網田浩三	関東	神奈川県	横浜
機	54	石野田昭彦	中国	広島県	広島市
制	54	倉地良和			
開	54	國栖 晃	九州	佐賀県	佐賀市
制	54	近藤 務	関東	茨城県	高萩市
機	54	坂田晃羅	関東	三重県	四日市市
機2	54	三宝康則	近畿	大阪府	堺市
制	54	西原博徳	九州	福岡県	みやま市
化	54	西村勝英	近畿	大阪府	和泉市
子	54	早田洋一	関東	神奈川県	南足柄市
機2	54	植本 茂	関東	千葉県	佐倉市
機	54	舩重 豊	関東	神奈川県	横浜
化	54	松岡 智子(敬足)	九州	福岡県	北九州市
機	54	諸橋 勝	近畿	大阪府	大阪市
環	54	山内幸清			
機	54	山下能史	九州	佐賀県	三養基郡
化	54	四辻博文	中国	広島県	広島市
機	55	石田和布	近畿	兵庫県	川西市

九州工業大学 責善会 自動車部OB会名簿(2012.11.29)

学科	卒年	氏名	地域	都道府県	都市
機	56	岩尾 満	中国	広島県	廿日市市
制	55	太田大州	関東	千葉県	佐倉市
電	56	太田敏隆	関東	茨城県	つくば市
機	56	大原憲一	中国	広島県	東広島市
金	56	島原方雄	関東	東京都	台東区
金	55	孝橋生郎	近畿	奈良県	五條市
機	55	中村正法	九州	福岡県	北九州市
環	55	福川将文	関東	神奈川県	小田原市
子	55	洲上弘行			
機	55	松元俊彦	関東	千葉県	我孫子市
子	55	光成敏博	関東	東京都	稲城市
情	56	石松英明			
化	56	須藤啓司	九州	大分県	由布市
機	56	高須賀英夫			
子	56	徳永信吾			
加	56	平田千鳥	九州	福岡県	北九州市
機2	56	藤本義文	中国	広島県	福山市
機	56	武藤哲郎	九州	福岡県	八女市
化	57	石井庸夫	関東	埼玉県	越谷市
開	57	大島一郎	九州	福岡県	福岡市
電	57	大野敏二			
子	57	尾辻泰一	東北	宮城県	仙台市
電	57	小野裕人			
子	57	川村 博	中部	愛知県	岡崎市
子	57	白水孝久	九州	佐賀県	鳥栖市
子	57	中村 聡	九州	福岡県	北九州市
化	57	畠中信和	九州	福岡県	北九州市
機	57	山口 寛	関東	東京都	西多摩郡
機	58	浦田慎二	関東	神奈川県	横浜賀市
開	58	片岡琢士	九州	熊本県	熊本市
制	58	島村秀司	中部	静岡県	御前崎市
機	58	永井祐二	九州	宮崎県	宮崎市
金	58	廣田 孝	近畿	大阪府	岸和田市
子	58	前田 満	九州	福岡県	福岡市
環	58	三原伸治	近畿	京都府	京田辺市
制	58	森 浩紀	九州	福岡県	福岡市
金	59	大井倫夫	四国	徳島県	徳島市
金	59	小川洋一	九州	福岡県	北九州市
機	59	近藤一彦	四国	愛媛県	今治市
開	59	高橋健司	九州	大分県	大分市
機	59	津曲隆司	関東	東京都	狛江市
開	59	友田富雄	九州	福岡県	北九州市
機	59	長木正博	中国	広島県	三原市
機	59	長沼浩二	九州	大分県	大分市
機	59	那須良行	九州	福岡県	中間市
機	59	神田俊彦	九州	熊本県	菊池郡
情	59	平瀬良人			
環	60	井上浩俊	九州	福岡県	甘木市
制	60	小林将一			
機2	61	石井鉄也			
機	61	一瀬博保	九州	長崎県	諫早市
機	61	中村 勉	中国	山口県	光市
機2	61	福島 貴	中部	愛知県	豊田市
開	62	小嶺弘之	九州	長崎県	長崎市
機2	62	近藤 薫	中部	愛知県	岡崎市
機	62	貞近秀治	中部	愛知県	刈谷市
開	62	三角衛一郎	九州	福岡県	宗像市
金	62	生越丈夫	九州	福岡県	久留米市
機2	62	三好明宏	中国	兵庫県	西宮市
機	62	諸岡 陽			
機	62	山田陸生	九州	福岡県	太宰府市
機	62	山本 彰	九州	福岡県	飯塚市
機2	63	小川博史	中部	愛知県	名古屋市
金	63	柿本基文	近畿	京都府	八幡市
機2	63	御領親幸	中部	愛知県	安城市
開	63	坂口裕司	関東	神奈川県	川崎市
金	63	坂田康通	関東	神奈川県	川崎市
金	63	高以来陽治			
M設	63	永富 潤	近畿	兵庫県	神戸市
化	63	真島匡典	九州	佐賀県	佐賀郡

学科	卒年	氏名	地域	都道府県	都市
開	H1	河野俊史	関東	神奈川県	横浜市
機2	H2	木戸 司			
M設	H1	黒田 豊	九州	福岡県	行橋市
制	H1	谷口 浩	関東	千葉県	千葉市
金	H1	鶴田靖英	関東	群馬県	太田市
機2	H1	永渕直大	関東	神奈川県	相模原市
機	H1	藤嶋義孝	近畿	京都府	京都市
加	H1	古寺明雄	九州	大分	北米
機	H1	元木昭宏	中国	広島県	広島市
金	H1	山下利彦	九州	福岡県	北九州市
加	H2	今泉雄起	九州	福岡県	糟屋郡
加	H2	高安秀徳			
電	H2	藤井啓一	中国	広島県	広島市
機	H2	山崎公幸	中国	福岡県	小都市
機	H2	渡辺秀男	中部	愛知県	豊田市
機	H3	須賀 明	九州	福岡県	遠賀郡
M設	H3	竹下朋春	九州	福岡県	北九州市
機	H3	林 弘治	中国	岡山県	倉敷市
機2	H3	福田達也	九州	福岡県	倉敷市
機2	H4	内野稔秀	中部	愛知県	愛知郡
M設	H4	公山謙二	海外	USA	Wilson
設機	H4	白石 聡	四国	香川県	綾歌郡
機	H4	宗雲裕昭			
M設	H4	谷尾 憲			
設機	H4	山下 暢	九州	熊本県	宇土市
設機	H4	山根康美			
設機	H4	山本 剛	九州	福岡県	太宰府市
機	H4	吉住治郎	中部	愛知県	西加茂郡
機	H5	家守治一	中国	岡山県	倉敷市
設機	H5	紙谷俊彦	関東	神奈川県	横浜市
設機	H5	松尾勝規	中部	愛知県	岡崎市
設機	H5	立松健三			
電計	H6	川口修一			
設機	H7	桂 和成	九州	福岡県	北九州市
物材	H7	原田博孝			
設機	H8	岡 哲郎			
設機	H8	小西幸生	関東	栃木県	宇都宮市
電子	H8	中沢正一郎			
設機	H8	渡邊裕之	九州	大分県	大分市
設機	H9	小野浩一	九州	福岡県	太宰府市
設機	H9	篠崎正孝	九州	福岡県	福岡市
電電	H9	鈴木隆夫	四国	愛媛県	松山市
電電	H9	宮城政人	九州	沖縄県	島尻郡
設機	H9	森若晃太郎	九州	福岡県	京都郡
設機	H9	山本信也	九州	大分県	東国東郡
設機	H9	渡邊 洋			
設機	H10	小早川 貴	中国	山口県	周南市
設機	H10	高橋範康	中国	山口県	周南市
設機	H10	遠山浩一	九州	福岡県	北九州市
設建	H11	井手野 創	九州	福岡県	福岡市
設機	H11	中村裕一			
設機	H11	藤井隆史			
設機	H12	岩本俊郎	九州	福岡県	京都郡
設機	H12	中本立宙	中国	山口県	下関市
設機	H13	實村 拓			
M機	H13	山ノ口智賢	関東	神奈川県	横浜市
機制	H13	渡邊冠士	九州	長崎県	長崎市
H13		柴田 徹			
機情	H14	安部満正	中部	愛知県	豊田市
設B	H14	柴田 徹	九州	福岡県	遠賀郡
機宇	H14	松本寛治	関東	栃木県	宇都宮市
機宇	H14	森 浩二	中国	岡山県	総社市
H14		石塚 誠			
H14		渡辺冠士			
H14		安倍俊富	関東	茨城県	ひたちなか市
機制	H15	石塚 誠			
機知	H15	村井健太郎	関東	埼玉県	川越市
機	H17	犬丸 卓	九州	福岡県	福岡市
H17		西本雄亮			
H17		西野耕司			

学科	卒年	氏名	地域	都道府県	都市
	H17	田口隆浩			
	H18	延原			
M機	H18	石丸昌弘			
	H19	徳永英之			
	H19	泥谷圭亮			
	H19	藤川 諒			
	H20	安部将太			
	H20	国吉 努			
	H20	倉本竜典			
	H20	平塚亮輔			
	H21	朝長雄大	九州	福岡県	北九州市
	H21	石原			
	H21	桑原			
	H21	花本			
	H21	原島賢太	九州	福岡県	北九州市
電	H22	北垣恵一	九州	福岡県	北九州市
機	H23	香川 岳寛			
機	H23	山端 誠志郎			

【物故者】

学科	卒年	氏名	地域	都道府県	都市
キ	17	豊田侃信	九州	熊本県	八代市
テ	19	山本平八			
コ	21	古江 勝			
キ	21	喜多村広利			
テ	21	今井淳之			
キ	22	越山保隆			
キ	22	伊東広一			
テ	22	立松健三	近畿	兵庫県	芦屋市
キ	23	久保昭夫			
キ	23	三重野宗一			
キ	23	田中桂三			
キ	24	赤松和範			
テ	24	高野聖也			
力	24	真那子晃一			
キ	25	澤井慶次			
キ	25	酒井通光			
キ	25	溝口泰生			
キ	26	後藤哲二	九州	福岡県	福岡市
ニテ	26	川崎博久	九州	福岡県	福岡市
機	28	渡辺良一			
電	29	吉田祐三			
鉦	32	松吉 勇			
化	32	川崎高穂			
金	32	笠原義太郎	関東	神奈川県	相模原
金	36	渡辺敏美			
機	37	倉益寿義	関東	神奈川県	三浦郡
機	38	森光輝八郎			
電	38	増田茂穂	関西	兵庫県	宝塚市
開	43	伊藤東一			
機2	48	浜田 司	関東	埼玉県	ふじみ市の市
機	51	高橋秀一			
情	53	潮崎英雄	関東	神奈川県	平塚市
化	56	府内秀幸	近畿	兵庫県	神戸市
機2	57	寺田睦雄			

【編集後記】

政治の不安定、外交問題、震災復興、脱原発、円高、景気の低迷、異常気象などなど今のわが国には問題が山積である。12月16日には総選挙が行われる。第3極にも期待するが、今のところ、どの党または誰に投票すればよいのか判らない。ただ、近隣国とは平和的に理解しあえる国にしたい。(武)

発行日 平成24年12月15日
 発行者 九州工業大学責善会自動車部
 主将 穴井謙志郎
 明専・九州工大自動車部OB会
 会長 木村知幸
 編集者 武地伸佳(機Ⅱ51)
 横浜市泉区領家2-8-5
ntakechi@hotmail.com
 口座番号 01360-5-53492

明専・九州工業大学自動車部 OB 会
九州大学責善会自動車部